

てふく事あり、依てすげを式とす、

〔播磨風土記 完 禾郡〕敷草村。○中 有澤二町許此澤生菅、作笠最好、

〔皇大神宮儀式帳〕一新宮遷奉御裝束用物事

菅御笠二枚

〔大神宮儀式解 九〕菅御笠は須介乃美加佐とよむべし、雨儀には紫蓋に代てこれを用る也。○中

こゝにいふは笠なるを字にかゝはらず、同訓によりて笠の字を用し也。符、此御笠を菅大笠と

注せしは、よくかなへり、西宮記 考定條雨儀者云々、刺笠と見ゆ、

〔日本書紀通證 神代〕正通曰、笠、祭禮用菅笠也。宗因曰、伊勢大神遷座時、山城賀茂御講祭等用菅小

在問菅、菅清之義、故祝具用之、儀式帳有菅、裁物忌、舊事紀有笠、縫部、崇神紀有笠、縫部、

〔延喜式 四 伊勢大神宮〕大神宮裝束。○中 菅笠二枚。○中

度會宮裝束。○中 菅笠一枚

〔書紀集解 神代〕按、菅笠之用、式所見如此、知神世之遺風、

〔大神宮諸雜事記 三〕治曆二年八月廿五日丁未、大神宮假殿御遷宮也。○中 以巳時、天 御出奉遷之間

乃雨彌倍、天 無間斷、仍以菅御笠、天 御體之上差隱奉、天 假殿、仁 渡御坐之間。○中

〔兵範記〕仁安三年十一月廿二日己卯、大菅宮儀。○中 亥一刻、入御悠、紀神殿。○中 車持氏差菅御笠。○中

〔百練抄 後鳥羽〕建久五年三月十八日、賀茂祭也。○中 取物舍人四人。○中 註 菅笠、赤色御物

〔太平記 二〕長崎新左衛門尉意見事附阿新殿事

此資朝子息國光中納言、其比ハ阿新殿トテ、歲十三ニテヲハシケルガ、○中 遙々ト佐渡國ヘゾ下

ケル、路遠ゲレドモ、乗ベキ馬モナケレバ、ハキ習エ草鞋ニ菅小笠ヲ傾テ、露分ワクル越路旅、思ヤ